



文 ニック・フォークス
写真 ジャン・ポール・カッタン
翻訳 小金井 良夫

限りなく深いブルー

ティエリー・スターン社長は、時計界を驚かせるタイムピースを創作したいと思い、技術革新と伝統を融合させることにした。ここまではいかにもバテックらしい。しかし航空界の揺籃時代を思わせるカラトラバ・パイロット・トラベルタイムは、本当に予想外のタイムピースであった。世界を飛び回る冒険者の精神がいかにしてニューモデルを誕生させたかを解説する。



その時計は、バーゼルワールド2015のパテックフィリップ新作中、最も話題となったのではない。すべてのバーゼルワールド2015新作中、最も話題となったのである。その時計とは通称「パイロット」、正式名パテックフィリップ・カラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524モデルである。

このニューモデルに関しては、好きか嫌いかという点ではなく、このような時計が本当にパテックフィリップなのかという点を巡って意見が戦わされた。ティエリー・スターン社長は、前者の点について意見が分かれることは予想していたが、この作品が真のパテックフィリップと呼べないのではないかと疑問は一刻も脳裏を過ることがなかったという。しかし結局のところ、そのような疑問はそもそも必要なのだろうか？ 株主やグループが所有し、経営するブランドと異なり、家族経営の老舗であるパテックフィリップは、今日ますます希少となった贅沢を享受している。それは「何をすべきか」に関して取締役会やマーケティング・グループに問いを立てる必要がない、ということである。パテックフィリップでは、社長は本能に従って行動することができる。すべての決定は、オリンピック選手が筋肉に貯えた記憶のように、長年の経験から構築され、第二の天性となった直感的な知識に基づいて下されるのである。蓋し家族経営のマニファク

チュールに優るものはないのである。

ティエリー・スターン社長は子供時代、ローヌ通りの旧本社に行く毎に祖父アンリ・スターンが収集した数々の七宝細密画懐中時計に魅せられたという。これらの時計は今日、世界的に著名なパテックフィリップ・ミュージアムが所蔵する作品の中心を形成している。ティエリーがパテックフィリップに入社した当時工房があった建物で、今日、ミュージアムとなっている。カラトラバ・パイロット・トラベルタイムは、ミュージアムに展示された何百点にもおよぶヴィンテージ、アンティーク・タイムピースのコレクションからインスピレーションを得て創作された。次回パテックフィリップ・ミュージアムに行かれたら、2階の展示ケースN°47(エレベーターを出て右側)を見ていただきたい。ここに1936年に製作されたブラック文字盤、ニッケル仕様の地味な腕時計が2点ある。

20世紀初頭、世界は急速な技術進歩の渦中にあり、とりわけ未来の輸送手段といわれた航空機の発展は目覚ましいものがあった。ライト兄弟により世界最初の動力飛行が行われてからわずか24年後には、チャールズ・リンドバーグがスピリット・オブ・セントルイス号によって初の大西洋横断飛行を成し遂げている。18世紀において遠洋航海の発展が経度測定に欠かせない精密な時間計測技術を生み出したように、

20世紀における航空輸送の発展もまた、時計製作に変革をもたらしたのである。航空輸送に触発された多くの技術革新のひとつが、時角時計と呼ばれるものである。これは米海軍将校フィリップ・ヴァン・ホーン・ウィームズとチャールズ・リンドバーグ自身によって考案された。航空輸送の初期に製作された時角時計は、ナビゲーターと時計を兼ねた計器であり、時計史家ドミニク・フレシヨンによれば「グリニッジ子午線における太陽の時角を均時差を考慮に入れて表示」し、これによりパイロットが自分の現在位置を容易、正確、迅速に決定することができた。

展示ケースN°47にある2つの時計の特異な文字盤デザインは、この特殊な機能に由来する。文字盤を24時間で1周する短針は、中央の目盛に時角を60度単位で表示する。長針は4時間で1周し、外周目盛に60度未満の部分を度単位で表示する。また細い「秒針」は4分で1周し、やはり外周目盛に1度未満の部分を分単位(1度の1/60)で表示するのである。その結果、例えば10時8分を表示しているように見えても、実際の時刻は午後8時32分となる。かくも高度なナビゲーター計器の製作は、ジュネーブ天文台計時精度コンクールで卓越した成績を収めていた、パテックフィリップにして初めて可能だったのである。

1930年代以来航法システムは進歩を

遠洋航海の発展が
精密な時間計測技術を
生み出したように、
航空輸送の発展もまた、
時計製作に変革を
もたらしたのである。

続け、今日ではこのような文字盤の表示方法を知らずには、航空史専門家のみになった。しかしこの2つの時計の55と56ミリという際立つて大きなケース径は多くの人々の共感呼び、ティエリー・スターン社長の元には、これを復刻して欲しいという希望が長年にわたり数多く寄せられていた。

「ミュージアムを訪れたお客様が多くがこの2つの時計をご覧になり、「これはすごい。同じようなものをつくってくれませんか」とおっしゃるのが常でした。おそらく千人ほどの方々から同じことを言われた後、何かできないだろうかと思えるようになったのです」とティエリーは微笑んだ。「このままではサイズが大きすぎるため、単なる復刻はしたくなかった。でもデザインが非常に面白かったので、同じスピリットを持ち、よりサイズの小さいもの

[左ページ] 重厚な2つのプッシュボタン、余裕ある幅のバンドなど、ケースバック側から見ても比類のない力強さを感じさせる5524モデル。技術革新を体現した自動巻ムーブメント、キャリバー324 SC FUSを搭載。トラベルタイム機能は、出発地と現地の時刻を2本の時計で表示し、現地の日付を指針表示し、出発地と現地各々の昼夜を窓表示する。



(右または左) パテック
フィリップ最初の
(そして2015年までは
唯一の) プロトタイプ・
パイロット・ウォッチ。
いずれも1936年製作。
パテック フィリップ・
ミュージアムの展示ケース
No. 47に展示されている。
ケース径 56 mm (左)、
55.36 mm (右) という
際立つて大型の「時角時計」。
1930年代初めに開発された
タイムピースへの
トリビュートであり、
文字盤はグリニッジ子午線に
おける、ある天体の時角を
表示し、パイロットが
自分の現在位置を容易に
決定することができた。



たまにはパテック フィリップという 名からは想像もできない、それでいて 正真正銘のパテックを新作に加える 必要があると思います。

きる何かが欲しいと思い、同
時に旅行中に有用な機能も欲
しいと思ったのです。トラベル
タイム機構を搭載することに
決めたのは、正にこのためです。
「テイエリー・スターン社長
は、飛行機と時計のオーナーを
結ぶ絆として、パラシュートを
飛行服に固定するハーネスから
インスピレーションを得たパッ
クルをデザインしたのである。
しかしさらに驚くべきこと
は、これらすべてが6か月以内
に達成されたということであ
る。テイエリーは情熱的に語る。
「私たちはあらかじめ年間計画
を立てているので、通常、開発
予定はすべて埋まっています。

カトラバ・スタイルの
42 mmホワイトゴールド・
ケースが、海のような深い
ブルーの文字盤を完璧に
縁取っている。配置された
大型のゴールド植字数字は、
パイロットがコックピットの
はるか下に望見する雲や
冰山を思わせる。アール・
デコ風の大型夜光付数字は、
どのような条件下でも最高の
視認性を保証するため、
初期のパイロット・ウォッチに
一般的に採用されていた。

をつくることに決めたのです」。
一方文字盤のデザインに関して
は、時角時計よりもさらに古
いパテック フィリップの歴史
的タイムピースからインスピレ
ーションを得たという。
1922年、パテック フィリッ
プはラック・ブラック文字盤の
腕時計を製作した。あまり知
られていない時計であるが、一
目で類似が分かるデザインで
ある。夜光付の太いセリフ数字
、バトン型の夜光指針、外周の
シユマン・ド・フェール型分ス
ケール、6時位置のサブダイヤル
などが際立って似ている。この
ユニークピースと5524モデル
の間には90年以上の隔たりが
あるが、明かな血縁関係が見
て取れる。ひとつの大きな違い
は、前者の文字盤がラック・ブ
ラックなのに対し、後者は濃い
ブルーであることである。

「ほぼ1世紀前のほとんど
未知の時計の文字盤をインス
ピレーション源とするのは、よ
いアイデアだと思いました。そ
のスマートで力強いデザイン
は、時代を完璧に反映してお
り、新しいパイロット・ウォッ

でも私がこのモデルの創作を
決めた時、偶然、少し余分な時
間が残っていたのです。私の望
みははっきりしており、すべ
てを視覚化できました。だか
ら非常に速く行動できたので
す。年間計画になかったモデル
ですから、発表時期も決めら
れてはいませんでした。『やっ
てみよう。成功したら新作に
含めよう』ということだったの
です。デザインの斬新さに全員
が驚き、楽しんで仕事ができ
たので、すべてが驚くほどス
ムーズに進みました。開始から
完成までの期間でいえば、当
社で最速のプロジェクトのひと
つとなっています。それはま
た最も挑発的なプロジェクトの
ひとつでもあった。

テイエリーはいたずらっぽく
言う。「人々に衝撃を与え、ど
う反応するか見ることも目的
のひとつでした。たまにはパテ
ック フィリップという名からは想
像もできない、それでいて正真
正銘のパテックを新作に加える
必要があると思います。このモ
デルは、まさにそれです」。
テイエリーの魅力的な会話

チに最適でした。しかしパイ
ロット・ウォッチといえば、どれ
も大きなラウンド・ケースにブ
ラック文字盤を搭載していま
す。ブラック文字盤のパイロ
ット・ウォッチを今さらつくるの
はあまりにも陳腐だと思っ
たので、私は文字盤デザインに
しては市場に耳を傾けませ
んでした。真のスタイルを追求
することにしました」とテイ
エリーは語る。

しかしこれで終わりではな
かった。1936年製作の2つの
腕時計と、1920年代の文字
盤デザインからインスピレ
ーションを得ただけではなく、それ以
上のものを追加したかったの
である。「パイロット・ウォッチの通
常の考え方を超えて、今日旅行
する人々が必要としているもの
を提供しよう、と考えたのです。
実はこれは操縦士用の時計で
はありません。副操縦士用、と
いうより客席に座る乗客のた
めの時計なのです。私はブラ
イベートジェットに乗っている
時の私自身を思い浮かべまし
た。私が操縦するわけではあ
りませんが、飛行機と共有で

は続く。「このような時計は今
後もつくっていきます。毎年パ
テック フィリップのデザインを
一新するといふわけではあり
ませんが、よいアイデアが生ま
れたら、それを形にするべきだ
と思います。パテック フィリッ
プの情熱的な愛好家であれば、
カラーや文字盤に関して来年
どのようなものが発表される
か予想はつきません。でも人々が
期待する通りのものを提供す
るだけではなく、時にはまった
く思いもかけないモデルを創
作することも私の仕事のひと
つなのです。私たちが若く、常
に予想外のものを創作する力
を持っていることを示すこと
は、私にとつて喜ばしいだけ
なく、パテック フィリップにと
つてたいへん重要なことです」。
テイエリーのプライベートジェ
ットの操縦士なら、「シートベル
トをお締めください。これからス
リル満点の乱気流に入ります」
と言うところであろう。 ◆

「パテック フィリップ マガジン・エクス
トラ」(patek.com/owners)にて、こ
の記事の特別関連コンテンツを
ご覧ください。